

## 教科目名 電気回路Ⅲ (Electric Circuits Ⅲ)

学科名・学年 : 電気電子工学科 3年

単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 授業時間46.5時間)

担当教員 : 木本智幸

授業の概要			
2年生で学んだ電気回路Ⅱを基礎にして, さらに「二端子対網」, 「三相交流回路」, 「フーリエ級数」, 「ベクトル軌跡」を学ぶ。電気回路の計算力をつけることはもちろんのこと, なぜこのような理論がうまれてきたのかを考えることによって, 電気回路理論をより深く理解する。			
達成目標と評価方法			大分高専目標 (B2)
(1) これまでに学んだ電気回路に関する基礎力を増す。(定期試験)			
(2) 授業項目に関連した諸現象について知見を深め, 応用数学的取扱いを理解する。(定期試験)			
(3) 授業項目に関連した概念がなぜ生まれたのかを理解する。(定期試験)			
(4) 演習問題を通して理解を深めるとともに, 継続的な学習ができるようにする。(課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2,3 4,5 6,7	第1章 二端子対網 1.1 二端子対網の表現 1.2 諸パラメータの性質と関係 1.3 伝送的性質Ⅰ 1.4 伝送的性質Ⅱ	第1章 電気信号の処理として重要な二端子対網について, その表現法と伝送的性質を理解する。	【理解の度合い】
8	前期中間試験	※24年度は8週の授業を実施した後に中間試験を実施するが, 試験範囲は二端子対網のみとする。	【試験の点数】 点
9 10 11 12,13 14	第2章 三相交流回路 2.1 三相交流って何 2.2 三相交流回路の計算Ⅰ 2.3 三相交流回路の計算Ⅱ 2.4 三相交流電力と対称三相 2.5 なぜ三相交流なのか	第2章 三相交流とはどんなものか, その回路解析には電気回路Ⅰで学んだ閉路解析法, 節点解析法が使えることを学ぶ。対称三相回路では計算が簡単になることを理解し, 最後に大電力の送電や回転磁界を作るのに三相交流が便利のよいことを理解する。	【理解の度合い】
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
16 17-18 19-20 21 22	第3章 フーリエ級数 3.1 異なる周波数の正弦波の和 3.2 周期波と電気回路 3.3 周期波を特徴づける諸量 3.4 フーリエ級数の求め方 3.5 いろいろな周期波のフーリエ級数	第3章 周波数の比が整数比であるような正弦波の和は周期波になることを学んだ後, 周期波の表現法をいくつか学ぶ。また, 電気回路により周期波がどのような処理をされるのかを通して, 伝達関数の意味を理解する。最後に, 一般の周期波のフーリエ展開について学ぶ。	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24,25 26,27 28,29	第4章 フェーザ軌跡 4.1 フェーザ軌跡って何 4.2 一次変換 4.3 いろいろなベクトル軌跡	第4章 回路中の一つの素子の変化が回路全体にどのような変化を生むのかを, 電圧, 電流, インピーダンスなどのフェーザの軌跡として理解する。	【理解の度合い】
30	後期期末試験 後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意	電気回路Ⅱは本教科の前提となる教科であるから常日頃から十分復習しておくこと。配布するプリントは, 授業を聞きながら大事な点を書き込んだり, 問題を解いたりするのに使用するが, 整理してファイリングしておくことよい。実力をつけるため適宜課題を出す。定期試験では期間中に学習した内容を中心に「電気回路Ⅱ」など過去に学んだ内容も含む。		【総合達成度】
教科書	大野克郎ら, 「大学課程電気回路(1)」, オーム社。		
参考図書			
関連科目	電気回路Ⅱ, 電気回路Ⅳ, 電気回路Ⅴ, 通信工学Ⅰ		
総合評価	達成目標の(1)~(4)について4回の試験と課題で評価する。 総合評価=0.8×(4回の定期試験の単純平均)+0.2×(課題提出点)。 総合評価が60点以上を合格とする。総合評価が50点以上60点未満の学生には再試験を行い, 60点以上取得で合格とする。ただし, 正当な理由なく定期試験を欠席した者やカンニングによって定期試験の評価がゼロとなり不合格となった者には再試験は行わない。		【総合評価】 点